

はじめに

日本語を学ぶ留学生が、日本語でのディスカッションを求められる機会は多いです。例えば学校では、グループでディスカッションを行い、話した内容をグループごとに発表する活動が行われることは珍しくありません。また、日本での就労を希望する場合には、就職活動の際にディスカッションが課されることもありますし、就職後に業務を遂行する上でも、ディスカッションは必要不可欠なものです。より日常的な場面に目を向けてみると、友人と旅行先を相談して決める、というのもディスカッションの一つだと言えるでしょう。

これらのディスカッションに共通しているのは、「相手と協力的に意見交換を行い、一つの結論を出す（＝合意形成をする）」という手続きです。このような手続きが適切にできるようになるためには、会話とは別にディスカッションの表現や技術を体系的に学ぶ必要があります。なぜなら、意見交換・合意形成を目的としたディスカッションの手続きは、意思疎通・コミュニケーションを目的とした会話の手続きとは、使われる表現も求められる技術も大きく異なるからです。そこで、私たちは、留学生にはディスカッションを体系的に学ぶ授業が必要だと考えて、2016年から実践しています。そして、現在に至るまで、毎年、教材を作成しては授業を行い、教材と授業内容の検討・改善を繰り返してきました。その成果をまとめたのが、このテキストです。

このテキストは、ディスカッションに必要な表現と技術を身につけること、それらを適切に使ってディスカッションに参加すること、協力して結論を出すことを通して、留学生がディスカッションを楽しみ、ディスカッションに貢献できるようになることを目標としています。そのために、テーマに沿ったディスカッションを実際に行う「実践編」に加えて、あいづちや役割分担、記録の取り方といったディスカッションの基礎を学ぶ「解説編」、ディスカッションに必要な思考の整理や意見の言い方、結論の出し方をまとめた「技術編」を設けました。「実践編」の達成目標は、「日本語教育の参照枠」のB1～B2レベルの記述文を下敷きにしていますが、学習者のレベルやニーズに合わせて「解説編」や「技術編」の内容を取捨選択することができ、幅広く活用することが可能です。

多くの先生方、留学生にこのテキストをお使いいただき、ディスカッションで意見を交わし、互いの考えを知ること、協力して結論を出すことの楽しさを経験していただければ幸いです。

2024年11月 著者一同

目次 CONTENTS

はじめに iii

このテキストをお使いになる先生方へ vi

(1) テキストの構成 vi

(2) 授業計画の例 vi

(3) 各 Step の活動の説明 ix

第1部 じっせんへん 実践編

じっせん せんたくがた
実践1 選択型ディスカッション (A) 3

「都会と田舎、住むならどちらがいいか」

じっせん せんたくがた
実践2 選択型ディスカッション (B) 19

「アルバイトをするなら、何が一番いいか」

じっせん さん びりやうろんがた
実践3 賛否両論型ディスカッション 35

「外国人観光客に対する二重価格の設定に、賛成か反対か」

じっせん もんだいかいけつがた
実践4 問題解決型ディスカッション

「外国語能力を伸ばすには、どうすればよいか」 53

第2部 かいせつへん 解説編

かいせつ
解説1 ディスカッションとは 73

かいせつ きそ
解説2 ディスカッションの基礎 81

第3部

ぎ じゅつ へん 技術編

ぎ じゅつ	かんが	技術1 考える	91
ぎ じゅつ	はな	技術2 話す	103
ぎ じゅつ	けつろん だ	技術3 結論を出す	120

巻末

かんまつ し りょう 巻末資料

かんまつ し りょう	ひょう か	巻末資料1 評価について	142
かんまつ し りょう	たっ せい もく ひょう	巻末資料2 達成目標について	149
かんまつ し りょう	れい	巻末資料3 テーマ例	155
かんまつ し りょう	に ほん ご ひょうげん れい	巻末資料4 日本語表現例	157



このテキストをお使いになる先生方へ

(1) テキストの構成

このテキストは、実践編・解説編・技術編の3部構成になっています。

実践編…ディスカッションの実践に取り組む。

選択型(A)、選択型(B)、賛否両論型、問題解決型があります。それぞれのディスカッションの型に応じたテーマ例が巻末資料にありますので、学習者の興味やレベルによってテーマを変えて実施することもできます。

解説編…ディスカッションについて・ディスカッションの基礎について学ぶ。

ディスカッションとはどういうものか、ディスカッションで大切なこと（アイコンタクトや態度など）は何かなどについて解説しています。ディスカッションについてはじめから学びたい場合や、改めて基本的なことを確認したい場合など、必要に応じて参照してください。

技術編…ディスカッションに取り組むときの基本的な技術を学ぶ。

「考える」「話す」「結論を出す」という3項目の技術について、いくつかの「活動」と練習問題「やってみよう」を通じて学べるようになっていきます。ディスカッションの実践に取り組む前や、授業の時間調整など、必要に応じて部分的に使うことができます。

(2) 授業計画の例

ここでは、実践編を授業で扱う際の授業計画の例を紹介します。実践1、実践2では比較的容易な選択型(A)、選択型(B)、実践3、実践4では、より複雑な賛否両論型と問題解決型のディスカッションを行います。構成は各課共通で、大きくディスカッションの準備・本番・報告とふりかえりの3段階に分かれており、それらを5つのステップと11個の活動で構成しています。活動はモジュール型ですので、学習目的や学習者の日本語レベル、時間の都合に合わせて、適宜、省略や短縮をしたり、重点的に行ったりすることが可能です。

- ・所要時間は、あくまでも目安です。適宜、調整してください。
- ・ディスカッション本番（ステップ3）までの活動で組むペアやグループは、クラスの規模にもよりますが、できるだけディスカッションの本番とは違うメンバーであることが望ましいです。

中級クラスの例

【1 課 = 1 コマ 90 分の場合 3 コマ、1 コマ 45 分の場合 6 コマを想定】

	こうもく 項目	けいたい 形態	ないよう 内容	しょうじょう 所要時間	90 分	45 分
導入	テーマと目標	全体	・テーマを理解する ・目標を確認する	5 ～ 15 分	1 コマ 目め	1 コマ 目め
	ウォームアップ	ペア	・テーマに関連する話題 について話す	5 ～ 15 分		
準備	ステップ1	活動1	個人	・情報を集める	20 ～ 30 分	2 コマ 目め
		活動2	個人	・語彙、表現を確認する		
		活動3	個人	・キーセンテンスを作成 する		
	ステップ2	活動4	個人	・自分の考えを整理する	10 ～ 20 分	3 コマ 目め
		活動5	ペア/ グループ	・自分の考えを話す		
本番	ステップ3	活動6	グループ	・ディスカッションをする	30 ～ 40 分	4 コマ 目め
報告とふりかえり	ステップ4	活動7	グループ	・結論を文章にまとめる	20 ～ 30 分	5 コマ 目め
		活動8	グループ	・結論を報告する		
		活動9	全体	・質疑応答をする		
	ステップ5	活動10	個人	・自分たちのディスカッ ションについて評価する	10 ～ 20 分	6 コマ 目め
		活動11	全体	・学んだこと、発見した ことを話す	10 ～ 20 分	

上級クラスの例

【1 課 = 1 コマ 90 分の場合 2 コマ、1 コマ 45 分の場合 4 コマを想定】

網掛け部分の活動を省略して、180 分で一つのテーマを扱う例を示しています。1 回のディスカッションの制限時間を短めにして 2 回行うなど、実践に重点を置くことも可能です。

	項目	形態	内容	所要時間	90 分	45 分
導入	テーマと目標	全体	・テーマを理解する ・目標を確認する	5 ～ 10 分	1 コマ 目め	1 コマ 目め
	ウォームアップ	ペア	・テーマに関連する話題について話す	—		
準備	ステップ 1	活動 1 個人	・情報を集める	—		
		活動 2 個人	・語彙、表現を確認する	10 ～ 20 分		
		活動 3 個人	・キーセンテンスを作成する	10 ～ 20 分		
	ステップ 2	活動 4 個人	・自分の考えを整理する	5 ～ 10 分		
		活動 5 ペア/ グループ	・自分の考えを話す	—		
本番	ステップ 3	活動 6 グループ	・ディスカッションをする	30 ～ 40 分	2 コマ 目め	2 コマ 目め
報告とふりかえり	ステップ 4	活動 7 グループ	・結論を文章にまとめる	10 ～ 20 分		3 コマ 目め
		活動 8 グループ	・結論を報告する	15 ～ 25 分		
		活動 9 全体	・質疑応答をする	20 ～ 30 分		4 コマ 目め
	ステップ 5	活動 10 個人	・自分たちのディスカッションについて評価する	10 ～ 20 分		
		活動 11 全体	・学んだこと、発見したことを話す	10 ～ 20 分		

(3) 各 Step の活動の説明

ここでは、実践編に用意されている 11 個の活動について、詳しく説明します。活動の中には、次のようなマークがついているものがあります。それぞれのマークの意味は、以下のとおりです。



書きましょう

このマークがついているところは、「書く」ことが中心になっている活動です。自分で考えたり、調べたりしたことを書きます。



調べましょう

このマークがついているところは、「調べる」ことが中心になっている活動です。インターネットや本を使って調べ、情報を集めます。



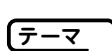
確認しましょう

このマークがついているところは、「確認する」ことが中心になっている活動です。書いてあることをよく読んで理解しましょう。覚えておくると便利な日本語表現なども確認します。



話しましょう

このマークがついているところは、「話す」ことが中心になっている活動です。ペアで話したり、個人で発表したりする活動があります。もちろん、ディスカッション本番のときは、グループのみんなが話します。



テーマ



と 目標の確認 (はじめの見開きページ)

まず、①この課で取り組むディスカッションのタイプ(解説 2 の「ディスカッションのタイプ」参照)とポイント、②流れ、③テーマと背景、④目標を確認してください。①②③は、適宜、確認すれば結構ですが、④は各課で達成したい目標ですので【この課のディスカッションの目標】にあがっていることを学習者が確実に意識できるよう説明してください(ディスカッション終了後「ふりかえり」部分において、この目標についての自己評価をします)。なお、[] で示してある資料番号は巻末の日本語表現リストの項目番号です。活動 2 の(3)でもあらためて確認しますので、ここでは触れなくても結構です。

ウォームアップ

ペア、あるいはクラス全体で、二つの質問についてごく簡単に話してください。あくまでもウォームアップですので、ここでディスカッションが始まってしまわないように気をつけてください。この活動は省略してもいいです。

テーマと目標の確認+ウォームアップで20分程度を想定していますが、クラスの状況によって調整してください。

ステップ 1

下準備 情報を集め、語彙や表現を確認する

全体で70分程度を想定していますが、宿題にすることもできます。また、学習者のレベルや、活動1 活動2 活動3 のどの部分に重点を置きたいかで調整してください。例えば、キーセンテンスの作成を重点的に行いたい場合は、活動2を10分、活動3を20分としてもいいでしょう。

活動1 (個人) 情報を集める

簡単なテーマであれば何も調べずにディスカッションに入ることも可能ですが、多角的に考える必要があるテーマの場合は特に、事前の情報収集によってディスカッションの充実度が大きく変わってきます。どのような情報を集めるかは、各課の「ポイント!」を参考にしてください。情報収集の仕方がわからない学習者も少なくありませんので、教師が参考になる新聞記事や映像などを提供し、学習者が情報を整理する形でもいいと思います。個人ではなく、ペアやグループで役割分担をして取り組んでもいいです。

活動2 (個人) 必要な語彙・表現を確認する

(1) 語彙・表現

このテーマでよく使われる、また、よく使われそうな語彙・表現をあらかじめあげてあります。各自が情報収集しながら必要だと思った語彙・表現もリストアップし、意味や使い方、漢字の読み方などを調べて確認してください。

(2) 文法的表現

このテーマでよく使われる、また、よく使われそうな文法的表現をあげてあります。どれも中級レベル以上であればすでに学習済みの表現ですが、実際には使ったことがなかったり、接

ステップ 2

ディスカッションの前に 自分の考えをまとめて話す

活動 4 (個人) 自分の考えを整理する

活動 5 (ペアあるいはグループ) 自分の考えをクラスメイトに話す

自分の考えを段落構造がある短い文章にまとめ (活動 4)、発表して聞いてもらう (活動 5) ミニ・スピーチの練習です。発表時間は一人 1 分程度を想定しています。覚えて発表してもいいですし、メモを見ながらでも構いません。活動 5 は、発話量が少ないクラスや、学習者の発話能力の差が大きいクラスでは重点を置くと思います。発表後に質疑応答や反論はせず、ここでディスカッションが始まってしまわないように十分注意してください。また、学習者には、ここで作成した原稿をそのままディスカッションで「読み上げる」ことがないように伝えてください。レベルが高いクラスでは、このステップは省略してディスカッション本番にのぞむといいでしょう。あるいは活動 4 だけを行ってもいいです。

ステップ 3

ディスカッション本番 ディスカッションをする

【ディスカッションを始める前に】

- グループをつくり、着席して役割を決めます。(参照：p.82)。グループの人数は 3、4 名が最適ですが、クラス規模によって調整してください。
- ディスカッションの制限時間を決めて、クラス全体で確認してください。ディスカッション本体 (話し合いそのもの) の制限時間は、以下が目安です。

・実践 1、実践 2 でのディスカッション：15 分～ 20 分 (最大 20 分)

・実践 3、実践 4 でのディスカッション：20 分～ 30 分 (最大 30 分)

制限時間内に必ず「結論」を出すことを強調してください。結論に至らなかったグループがあっても、時間延長はしないようにしてください。

- 制限時間を確認したら、クラスで、あるいはグループでディスカッションの流れを確認します。具体的な進め方はディスカッションの型によって少しずつ異なりますので、各課にある流れの図を参考に確認してください (次ページの【各課のディスカッションについて】も参照)。学習者には、もし、ディスカッションの途中で進め方に迷っても、自分たちのグループ内で調整し、自律的にディスカッションを進めるよう伝えてください。

【参考】一つのグループがディスカッションを行っているのを、ほかのグループが観察・評価
をするという方法もあります。ほかのグループがどのようにディスカッションを行っ
ているのかを知るよい機会です。このやり方は、テストのときにも使えます。

活動 6 ディスカッションの実施

- 役割が決まり、制限時間とディスカッションの流れの確認が終わったら、ディスカッション
を始めます。各グループのタイムキーパーの合図でディスカッションをスタートし、制限時
間がきたらタイムキーパーの合図で終了してください。ディスカッションは決められた時間
内に結論を出すことが大切ですから、時間管理は重要です。タイムキーパー役の学習者だけ
に任せず、メンバー全員が時間配分に気を配るように説明してください。
- 各課のワークシート「ディスカッションの記録」は、書記だけに任せるのではなく、メンバー
各自がメモを取ります。書き方にこだわる必要はありません。メモの書き方に気を取られて発
言が減ってしまったりは本末転倒なので、学習者自身が思考の整理をしやすいように、自由に
使ってください。ただし、書記は責任をもってきちんと記録しなければなりません。(参照:p.84)

各課のディスカッションについて

ここで、各課のディスカッションの注意点と進め方の概略を説明しておきます。なお、結論
の出し方は「技術 3」でも詳しく説明していますので、そちらも参照してください。

実践 1 選択型ディスカッション(A)

「提示された二つの選択肢のうち、どちらがよいか」を話し合うタイプのディスカッション
です。二つのうち一つを選ぶのは簡単なことのようにですが、直感ではなく十分な根拠をもとに
判断することが必要です。制限時間は 15 ～ 20 分が目安です。この時間で「前提条件の確認」
から「結論を出す」までを行います。

● 前提条件を確認する / 意見を出し合う / 論点を決める

指定された前提条件を確認し、前提条件を念頭に置きながら話し合います。論点は話し合う
前に決めておいてもいいですし、意見を出し合う中で見えてきた「重視すること」を論点とし
てもいいです。どちらの場合も、論点は三つほど設定するといいいでしょう。論点が決まったら、
ディスカッションの記録の「論点」のところにメモして、論点ごとに意見を出し合います（記
録用紙は、タテが論点を書くところになっています）。論点ごとに意見を出し合うことで、話し

あ だっせん ふせ だっせん ば あい き どうしゅうせい かんたん せってい ろんてん
合の脱線が防げます。また、脱線した場合も軌道修正が簡単です。もし、設定した論点とは
かんけい い けん だ がくしゅうしゃ ろんてん かんけい い けん だ うなが
関係のない意見を出している学習者がいたら、論点に関係のある意見を出すよう促しましょう。

● 論点ごとに意見を整理する

ある程度意見が出たら、ディスカッションの記録を見てそれらの意見を整理します。整理の
し かた かく い けん い か しるし
仕方として、各意見に以下のような印をつけると、どのような意見が出たのかがよくわかり便
り
利です。

○印：説得力がある意見

✓印：おもしろい意見、新しいと思った意見、深く考えさせられた意見、重要性を感じた意見、強く共感できた意見、など

● 結論を出す

ディスカッションの記録を見ながら結論を出します。結論はグループのメンバーが話し合っ
た上で出す「合意形成」であることが重要です。そのため、結論はメリットの多さだけで決める
のではなく、グループのメンバーが納得できるものである必要があります。もし、じゃんけ
んや多数決で結論を出そうとする学習者がいる場合は、ディスカッションの記録をよく見て、
それぞれの意見をきちんと検討するよう指導する必要があります。また、最終的な結論がテー
マに沿ったものになっているかどうか確認が必要です。

実践 2 選択型ディスカッション(B)

「テーマについてどのような選択肢があるか、そのうちのどれが最もよいか」を話し合うタイプのディスカッションです。論点を自分たちで探し出し、さらに、それに沿ったアイデア（選択肢）を考え、検討するというやや複雑な過程を経ます。制限時間は 15 ～ 20 分が目安です。この時間で「前提条件の確認」から「結論を出す」までを行います。

● 前提条件を確認する / 意見を出し合う / 論点を決める

指定された前提条件を確認し、前提条件を念頭に置きながら話します。論点は話し合う前に決めておいてもいいですし、意見を出し合う中で出てきた「重視すること」を論点としてもいいです。どちらの場合も、論点は三つほど設定するといいいでしょう。論点が決まったら、ディスカッションの記録の「論点」のところにメモします（記録用紙は、ヨコが論点を書くところになっています）。

● 論点ごとに選択肢をあげ、検討する

論点ごとに選択肢をあげ、ディスカッションの記録の「選択肢」のところにメモします（記録用紙は、タテが選択肢を書くところになっています）。そして、それぞれの論点における選択肢について、意見（メリット、デメリット、特徴、可能性など）を出し合い、それらをディスカッションの記録にメモします。ある程度意見が出たら、ディスカッションの記録を見てそれらの意見を整理します。整理の仕方として、各意見に以下のような印をつけると、どのような意見が出たのかがよくわかり便利です。

○印：説得力がある意見

✓印：おもしろい意見、新しいと思った意見、深く考えさせられた意見、重要性を感じた意見、強く共感できた意見、など

● 結論を出す

ディスカッションの記録を見ながら結論を出します。注意点は実践1と同様です。

実践3 賛否両論型ディスカッション

「テーマについて、賛成・反対どちらを支持するか」を話し合うタイプのディスカッションです。個人の持論に固執せず、異なる立場（視点）に共感し、それぞれの事情を理解した上で話し合うことが求められます。賛成・反対どちらかを選ぶという点では、選択型（A）の延長上にあると言えるのですが、テーマが心理・信条に絡むものになることがあり、結論を出すのが最も難しいディスカッションかもしれません。制限時間は20～30分が目安です。この時間で「前提条件を設定する」「立場（視点）を決める」から「結論を出す」までを行います。

● 前提条件を設定する、立場（視点）を決める

実践1と実践2では前提条件が提示してありましたが、実践3と実践4では自分たちで考えるところから始まります。前提条件とは、簡単に言えば「どのような場合について話し合うか」ということです。さらに、実践3では「誰の・どんな立場（視点）から考えるか」も決めます。立場（視点）は、多ければその分「多角的」ということができますが、あまりたくさんあっても時間内に結論を出すことが困難になるので、三つ程度決めればよいでしょう。難しければ、ワークシートに書いてある例の中から選んでもいいです。

● 立場（視点）ごとに賛成意見・反対意見を出す

前提条件と立場（視点）が決まったら、三つの立場（視点）それぞれから見た賛成意見・反対意見を出し合い、ディスカッションの記録（２）にメモしていきます。

● 出た意見を論点ごとに整理する

立場（視点）ごとに出た意見を眺めてみると、このテーマにおいてどのようなことが問題となっているのか、すなわち何が「論点」となるのかが見えてきます。論点は一つとは限りません。ここでは、三つほど論点をしぼって記録用紙の（３）１～３の下線部に書きます。そして論点ごとに、先に出た意見を転記して整理していきます。

● 結論を出す

「結論を出す」には、結論を出すときに考慮すべきことが書いてあります。①の「多くの意見が出た立場（視点）」とは、それだけ、みんなが注視している立場であり、②の「多くの意見が出た論点」とは、このテーマにおいてみんなが重視していることであると言えます。ただ、意見の数が結論の決め手となるわけではありません。③に書いてある観点も入れ、記録を見ながらグループのメンバーがさらに話し合い、納得できる結論を導き出さなければなりません。

実践４ 問題解決型ディスカッション

「テーマについて、どうすれば解決できるか」を話し合うタイプのディスカッションです。知識や想像力を駆使してアイディアを出していくことが求められますが、まず、解決すべき問題点をグループのメンバー全員で共有することが重要です。そして、最善の解決策を提示するためには、さまざまなアイディアをさらに検討する必要があります。そのためには一定の基準（＝評価のポイント）が必要です。実践４では、それも各グループで話し合って決めます。複雑な過程を経ますので、メンバー全員で協力して話し合いをコントロールすることが不可欠です。制限時間は20～30分が目安です。この時間で「前提条件を設定する」から「結論を出す」までを行います。

● 前提条件を設定する

前提条件を三つ考えることから始まります。ディスカッションの記録（１）に書いてある例の中から選んでもいいです。

● アイディアを出し合い、検討する

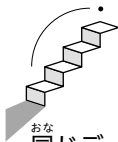
前提条件が決まったら、それに基づいてアイディアをどんどん出していき(目標10個)、ディスカッションの記録(2)にメモしていきます。ただアイディアをあげるだけでなく、理由、メリット/デメリット、特徴や可能性なども話します。

● アイディアを評価する/アイディアをしぼりこむ

アイディアが出そろったら、グループで「評価のポイント」を一つ決めます。「評価のポイント」とは、アイディアを採用する際の基準です。言い換えれば、グループが「この問題を解決するアイディアに求めること、重視すること」です。記録(2)を見ると、メンバーがこのテーマにおいてどのようなことを重視して意見を言っているのかがわかってきます。評価のポイントが決まったら、それにしがって記録(2)にあるアイディアを一つずつ◎、○、△、×など評価ポイントとの合致程度がわかるような印をつけて評価していきます。ここで注意したいのは、機械的に、◎がついたアイディアを一つだけ選んで結論にするのではないということです。この時点では、◎、○がついたアイディアはすべて結論の候補です。

● 結論を出す

◎、○がついたアイディアについて、さらに話し合います。「結論を出す」には、結論を出すときに考慮すべきことが書いてあります。◎、○がついたアイディアをあらためて見ると、融合できるものや、部分的に生かせそうなものがあるかもしれませんし、場合によっては新たなアイディアが生まれるかもしれません。また、意外と前提条件やテーマと合っていない、結論としてはふさわしくないということもあります。客観的な根拠に裏打ちされているアイディアは、説得力があると言えます。記録を見てグループのメンバーがさらに話し合い、納得できる結論を導き出さなければなりません。



さらにステップアップ

同じディスカッションの型とテーマで、前提条件やメンバーの立場を変えるなどして、さらに練習することができます。ディスカッションは慣れることが大切ですから、時間が許せば、ぜひこのタスクにも取り組んでください。

ステップ 4

けつろん ほうこく ディスカッションの成果を確認する

ぜんたい ぶんてい ど そうてい
全体で 60 分程度を想定しています。ここでは **活動 6** で行ったディスカッションの成果
かくにん (けつろん ほうこく と「質疑応答」) が活動の中心となります。上級クラスでは **活動 9**
しつぎ おうとう (質疑応答) の所要時間を長めに設定して、クラスでの意見交換を重点的に行ってもいいでしょ
う。中級クラスでは「**活動 7** (報告の準備)」の所要時間を長めに設定して、まずは、ディ
スカッションの成果をクラスできちんと報告することに重点を置いてもいいでしょう。このテ
キストでは、学習者が当事者意識をもって主体的にディスカッションに取り組む動機となるよ
うに、けつろん ほうこく と しつぎ おうとう を重要な活動として位置づけています。ぜひ、しょうりやく と く
組んでください。

活動 7 (グループ) けつろん ぶんしょう 結論を文章にまとめる

ディスカッションで出した結論を、ワークシートの形式に当てはめる形で文章にしていま
す (参照: p.127)。リーダーや報告役の学習者に任せるのではなく、メンバー全員で確認しな
がら、ワークシートにきゅう 記入します。

活動 8 (グループ) けつろん ほうこく ディスカッションの結論を報告する

ほうこく たんとく がくしゅうしゃ
報告を担当している学習者は、**活動 7** のワークシートを使って、クラスで報告します。

活動 9 (全体) ぜんたい しつぎ おうとう 質疑応答をする

ほうこく
報告したグループは、クラスメイトから質問を受けます。応答はグループの誰か一人ではな
く、グループ全員で分担してください。(参照: p.111)。

ステップ 5

ふりかえり ディスカッションの完成度を確認する

ぜんたい ぶんてい ど そうてい
全体で 30 分程度を想定しています。「**活動 10** (個人でのふりかえり)」15 分、「**活動 11**
(全体でのふりかえり)」15 分のように時間を配分してもいいです。上級クラスの場合、
活動 10 の時間を長めに設定して、学習者が「何ができて、何ができなかったのか」というこ
とを十分に確認できるようにしてもいいでしょう。個人でふりかえりをするのが難しいクラ
スであれば、ぜんたい ぶんてい じかん なが せってい
全体でのふりかえりの時間を長めに設定して、クラス全体で今回のディスカッショ

ンで得られた成果を確認し合ってもいいでしょう。

活動 10 (個人) 自分たちのディスカッションについて評価する

個人で (1) 自分のグループのディスカッションについての 5 段階評価と改善すべき点を記入し、(2) 結論に対する個人的納得度とその理由、(3) 目標達成に対する自己評価をします。すべて記入し終わったら、グループ内で結果を共有してください。なお、(3) の自己評価表は積み上げ式です。前の課までの既出項目もすべて記載しており、それらが今回のディスカッションでも達成できたかどうか、チェックできるようになっています。太枠内が当課で新しく提示された達成目標で、冒頭の見開きページにあげられている【この課のディスカッションの目標】です。(3) の自己評価は「日本語教育の参照枠」に基づいています。(参照：p.149)

活動 11 (全体) ほかの人の意見から学んだこと・発見したことを話す

最後に、クラス全体で今回のディスカッションを通じてわかったこと、発見したこと、気づいたことなどを話します。特に、ほかの人の意見や考え方から学んだことを、その理由とともに話すことをめざします。

応用

各課のディスカッションの型で話せそうなテーマを考えます。ディスカッションの型を理解できたかどうか確認することができます。自分たちで考えたテーマでディスカッションをしてもいいでしょう。